

八雲立つ日本・出雲から陽が昇る 対立 から 共生 の文化へ 出雲から「和議」で進化 昭和・平成から令和への平和・健康寿命宣言

はじめに

人間自然科学研究所が 25 年に亘り構想活動してきた尊厳の『いのち』が東京オリンピックの 5 年後に開催される大阪万博のテーマに決まりました。

地球規模の人類史的な激動期を迎え、三大核大国の米国・露国・中国に根源的な影響を受ける、韓国、共和国(北朝鮮)、日本は究極の抑制された対立状況が続いています。

2 月 22 日を『竹島の日』と定めた対岸の日本・島根県は、人口減少・高齢化と、完成間近の島根原発『三号炉』議論が重なり、世界注視の中で島根・鳥取県民の民度が試される状況を迎えています。

昨年は、八雲立つ出雲で生まれた『和議』をもとに活動する人間自然科学研究所の平和事業、進化を続けるシートシャッターhappy gate 門番事業、水道イノベーション特別賞に続き令和元年度「電波の日・情報通信月間」式典で東北総合通信局長表彰を受賞した、福島県南会津町で採用されたクラウド総合水管理システムやくも水神事業、これら 3 つの事業をあわせ、クラウド時代の地政学に基づいた『真のイノベーション構想』を発表しました。

また、中国東方出版社から日中友好条約締結 40 周年記念事業として『経営理念手帳』『一隅を守り千里を照らす一経営の道』が出版されました。サピエンス全史、ホモ・デウスの世界的大ベストセラーとも重なり、日本語の語源とも言われる『出雲弁発祥の世界縁結びの意字の郷』から、『新日本語辞典』の編纂と出雲で育かれたキルトにあらゆる文化活動を組み合わせた真の健康寿命が延びる『共生の文化創造』の構想の概要を発表する時を迎えました。

平成の時代は世界中で大規模な自然災害が頻発し、極端な気候変動が各地で起こり、それが年々激しくなっていました。その原因といわれる地球温暖化はもはや止まらないともいわれています。またテロの拡散、核兵器の危機、中東の情勢、経済格差による貧困問題や人権問題、AI や科学技術の高度な発達にともなう倫理の問題、エネルギーや環境破壊の問題など、平成の時代から引き継いだ課題は山積みしています。福島原発事故以来、行き場のない使用済み燃料問題、激甚災害多発などが重なり、国内外の原子力発電所の新設・再稼働について本質的な問題が提起されるようになりました。

島根・鳥取県では、「世界最新鋭日本最大・島根原発 3 号炉」完成を間近に控え、今年の 2 月 16 日に松江市の島根県民会館に小泉純一郎元首相をお迎えし「日本の歩むべき道 原発ゼロ・自然エネルギー活用の未来」を演題に講演会が開催されました。

小泉純一郎氏講演会に先立ち 1 月 11 日に講演会総括責任者の保母武彦先生を招き、テーマを「日本最大・世界最新鋭の島根原発 3 号炉と人類史上世界最大最新鋭の戦艦大和」「国宝となった松江城と城跡として残る米子城」「戦後フィリピン刑務所に収容された日本人の釈放に尽力した加納莞薔」として座談会を行いました。

そして、今年の4月29日（昭和の日）に、意宇川（松江市八雲町日吉）の人気恒例行事になっています「八雲ゆう游こいのぼり」にあわせ、本日6月8日に行われる嫁ヶ島万灯会・全国・世界水の偉人覚醒顕彰祭と松江市で10年に一度開催されるホーランエンヤの祭典成功と世界の平和の祭典オリンピックの盛会を祈願して、火の発祥の神社の熊野大社鑽火殿の聖火をいただき聖火リレーを開催いたしました。熊野大社大鳥居からスタートし、12kmの道のりを9組で聖火をつなぎ、岩坂陵墓参考地、神魂神社、剣神社、切通しで祈りを捧げ、周藤彌兵衛翁銅像前でかがり火に点火しました。夕方には、全国のおくからの水の偉人名を記載した灯籠に火をともし、感謝の誠を捧げました。

また、5月18日、ホーランエンヤの渡御祭が行われたその夜に「パリの響きを日本に！島根・松江公演」のコンサートが松江市総合文化センタープラバホールにて開催され、人間自然科学研究所と小松電機産業株式会社が本コンサートを特別推薦させていただき、多くの方にご参加いただきました。

これらの小松電機産業株式会社・人間自然科学研究所の活動を背景に、令和という新たな時代を迎えた時に、今までにさまざまな問題を生み出してきた人間の慢心や取り違いを反省し、歴史に学び、過去の過ちを教訓として、安重根・伊藤博文・ベルタフォンズットナー・周藤彌兵衛翁を現代に蘇らせ、龍谷大学の李洙任教授と平田厚志名誉教授、広島オーストリア協会・日韓親善協会の田中勝邦氏、永続的成長企業ネットワークの吉田正博代表理事、安重根記念館の李惠筠局長をお迎えして対立から共生の文化を拓くシンポジウム、に続き、全国・世界水の偉人覚醒顕彰祭を開催し、宍道湖夕日スポットで開催する嫁ヶ島万灯会とあわせ、袖師地蔵前砂浜にて二体の袖師地蔵・ズットナー像の前に祭壇を設け、全国・世界の水の偉人の功績が記された灯籠170基を灯す中、松江開府の祖堀尾吉晴公ゆかりの円成寺住職による護摩祈祷を執り行い、地方創生の世界・全国モデルとして世界縁結び「水と火と健康寿命の聖地」構想の実現を祈願「八雲立つ日本・出雲」から全国世界へ発表させていただきます。

令和元年（2019年）6月8日

小松電機産業株式会社

人間自然科学研究所

代表取締役 小松 昭夫